

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
分担研究報告書

小児・AYA 世代がんサバイバー女性におけるオンコウイメンズヘルスの実態調査

高橋俊文 福島県立医科大学ふくしま子ども・女性医療支援センター 教授

小児・AYA 世代がんサバイバーは、治療の副作用により多くの後遺症が発症する。生命予後を規定するのは、原疾患の再発ではなく、二次がんや心血管系疾患である。生命予後の改善には、生活習慣病を背景とした心血管系疾患の予防が重要である。すなわち、小児・AYA がんサバイバー女性におけるがん治療後の後遺症に関する長期的なフォローアップ体制の構築と医療介入が重要である。本研究の目的は、小児・AYA 世代がんサバイバー女性の後遺症を調査し、早発卵巣不全を含む月経異常の有病率を明らかにし、さらに第二がん予防に関する意識調査を行う事である。本研究は、小児・AYA 世代がんサバイバー女性におけるヘルスケア“オンコウイメンズヘルス”に関するわが国独自のエビデンスとなり得る。

研究分担者

太田邦明（東邦大学 医学部 産科婦人科学）
小宮ひろみ（福島県立医科大学附属病院 性差医療センター）
岩佐武（徳島大学 大学院医歯薬学研究部 産科婦人科学分野）
佐藤美紀子（日本大学 医学部 産婦人科学）
鈴木直（聖マリアンナ医科大学 産婦人科学）

A. 研究目的

小児・若年成人 (adolrescent and young adult, AYA) がんサバイバーは、治療の副作用により多くの後遺症（晩期障害）が発症する。女性では、早発卵巣不全が最も頻度の高い後遺症である。早発卵巣不全によるエストロゲン低下は、生活習慣病、心血管系疾患、骨粗鬆症のリスク因子である。小児・AYA 世代がんサバイバーの生命予後を規定するのは、原疾患の再発ではなく、第二がんや心血管疾患であるため、これらの早期発見と予防が重要である。

この観点から、小児・AYA 世代がんサバイバー女性における長期的なフォローアップ体制の構築と適切な医療介入が重要な課題である。しかしながら、我が国において、小児・AYA 世代がんサバイバ

ー女性における後遺症（晩期障害）の実態に関する調査研究はほとんど無いのが現状である。

本研究では、小児・AYA 世代がんサバイバー女性のがん治療後の晩期障害の実態調査と第二がん予防に関する意識調査を行うことを目的とする。

B. 研究方法

(1) 研究のデザイン：Web（インターネット）による自由参加型アンケート調査による横断研究を実施する。

(2) 研究の対象：小児・AYA 世代がんサバイバーかつ調査時の年齢が 20 歳以上の女性を研究対象とし、20 歳以上女性で小児・AYA 世代がんサバイバーでない女性を対照（コントロール）とする。

(3) データの収集方法：インターネットを用いた

web ベースのアンケート調査。調査会社マクロミル (<https://www.macromill.com/>) に調査を依頼。

(4) アンケート調査の概要：アンケート内容は、背景因子（基本的背景因子、小児・AYA がんに関する背景因子）に関する質問、晩期合併症に関する質問、第二がんに関する質問、その他（健康関連 QOL、ソーシャルキャピタル、心理ストレスなど）の項目である。

(4) アンケートのデータ採用基準：i) 分析に用いるデータは、アンケート回答者が該当する各質問項目に対して回答をすべて行ったものとする。ii) 回答が途中で終了したものについては分析に用いない。

C. 研究結果

研究初年度では、アンケート調査項目の作成を周到に準備した。その理由として、本邦では、小児・AYA 世代がんサバイバー女性の晩期障害に関する先行研究がなく、海外の小児・AYA 世代がんサバイバー女性に関する調査項目が本邦の実態と合わない可能性があるからである。

よって、本年度の研究成果は、次年度に実施予定の web アンケート調査項目の作成である。以下の調査項目の概要を示す。

<アンケート調査項目の概要>

1) アンケート回答者全員の基本属性に関する質問
2) 小児・AYA 世代がんサバイバー女性の晩期合併症に関する調査

- [1]. 小児・AYA がん患者に関する背景因子
- [2]. 晩期合併症（生活習慣病）に関する調査
- [3]. 月経異常に関する調査
- [4]. 健康関連 QOL に関する調査（SF-36）
- [5]. ソーシャルキャピタル（Duke Social Support Index、Lubben Social Network）に関する調査
- [6]. 心理ストレスに関する調査（K6）

3) がん検診への意識調査（第二がん関連の質問）

D. 考察

上記に示したアンケート調査を実施しデータを収集した後、データ分析を実施する。今回のアンケート調査の結果、1) 小児・AYA 世代がんサバイバー女性の晩期合併症の実態が明らかになる可能性がある。2) さらに、女性特有の合併症である、月経異常の頻度が明らかになる可能性がある。3) 小児・AYA 世代がんサバイバー女性の晩期合併症とソーシャルキャピタルや心理ストレスの関連が明らかになる可能性がある。4) 小児・AYA 世代がんサバイバー女性のがん検診への意識が明らかになる可能性がある。

E. 結論

本アンケート調査の結果、我が国での小児・AYA 世代がんサバイバー女性における晩期合併症の実態が明らかになれば、小児・AYA 世代がんサバイバー女性のヘルスケア管理指針を策定する基礎的データとなる可能性がある。

F. 健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記入

G. 研究発表

- 1. 論文発表
なし
- 2. 学会発表
なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

- 1. 特許取得
なし
- 2. 実用新案登録
なし
- 3. その他
なし